

公民館報 まつもと

発行
2026
3/30

松本市広報R7-11

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト



完成おひろめ会 ～見て・聞いて・学ぼう～

紙しばい「芳川水ものがたり」

企画：芳川水ものがたりプロジェクト/製作・出演：松本国際高等学校 マンガ・イラスト専攻3年、声優部

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 78

地域の歴史を未来へ!

先人たちの想いを
若い感性で伝えるプロジェクト
息づく魅力を次の世代へ

(撮影 2026.2.27 芳川小学校)

令和8年2月15日 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い
第41回公民館研究集会が行われる

演題

基調講演は **長野大学 早坂淳教授**

「多様性×協働」新しい価値」に学ぶ

今回の公民館集いは主会場の他に2か所で分科会を行いました。全会場合わせた入場者数は250人でした。

基調講演は、教育学専門の教授による、会場とのやり取りを生かした内容豊富な話でした。

以下基調講演の要約です。

「二つの道

現代は「強いリーダー依存」の道と、「自立した市民が歩む」道の分岐点です。前者はリーダーに従い恩恵を享受するという道であり、後者は自ら考え他者と共存する多様性尊重の道です。後者が「皆ちがつて、皆いい」という地域づくりの原点と考えます。

橋を架ける

地域づくりの現在地は無関心、役員の担い手がなく、活動も先細りという現実です。

全国で断トツの公民館数のある松本も例外ではありません。天下国家は容易には動か



熱のこもった講演

橋を渡る

せませんが、顔のつながる地域であれば主体的に創造できるのが住民自治、まさに「民主主義の学校」です。そこが揺らいでいるのです。

その中で再度地域づくりの原点に戻り、共生社会（ばらばらだけどひとつになる）に挑戦するのが「橋を渡ること」でしょう。対等な市民が違いを認めながら緩やかにつながる「協働」の推進です。橋を渡するには、大きな自己変革を伴います。多様性が大事とい

いながら、「外国人ヘイト」はじめ人権無視が横行、偏見や先人観も払拭できないのも



視聴者の反応に合わせて

現実です。大きな声に同調したり、「木を見て森を見ない」のも人の性、まして第4次産業革命といわれる昨今、AIに依存し考えることを放棄する人間が「ふつう」という時代に急速に変わっています。

「イノベーションへの覚悟

多様性こそイノベーションに不可欠で、新しい価値創造の原資です。現状をあきらめず、子どもや若者の感性などを地域に結び付け、形にする大胆で斬新な「協働」が期待されます。違いを楽しみ、「壊す・作る・変わる」覚悟の時が、

今なのです。社会や生き方の根底が問われる今、多様性を生かし協働することこそ新しい価値を生むことなのです。

分科会報告

幾つか行われた分科会の一部を紹介いたします。

●第3分科会
**「子どもの経験値を増やす
 コミュニティスクール」**

最初に小松伸行さんから、20年続く学校登山をCS主催で継続することとした事例が発表されました。

次の降旗都子さんは、2年生から「蚕って何？」との疑問に、住民も交えて答えられた清水小学校の事例が発表されました。



子どもの話題に熱がこもる

その後、参加者を4つの班に分けて行われたグループ討議では「大切な子どもたちに地域を学んでほしい」「子どもを信頼し、子ども目線に合ったまちづくりこそ期待されているのでは」などの意見が出されました。

大人になる前の多様な経験が、郷土愛を育む可能性を示唆する分科会でした。

●第4分科会

**「みんなの顔が見える
 地域をつくる」**

塩尻市社協と原新田公民館が連携した「月よう食堂」は、毎月50〜80人が利用する多世代が混合する食堂以上の場です。若者や引きこもりの人も安心できる、第3の居場所になつている事例です。

また高齢化が著しい浅間温泉への移住を促進する、合同会社 SunSun（すむすむ）は、移住者がシェアハウスを拠点に「住むから住民交流へ」ゆっくり展開していく好例でした。笑顔とおしゃべりが本領の和田地区健康マージャンや、eスポーツで世代交流する内田地区なども、楽しく遊ぶ地域づくりの知恵でした。



段々上手く打てるように

基調講演の動画はこちらから



視点

②⑤ 信州大学「しばふく」
地域と学生が
育てる新たな「場」

昨年の10月、信州大学の松本キャンパスに「中央広場」ができました。学生や教職員だけでなく地域住民も交流できる場としてつくられ、防災の拠点にもなります。

10人の有志で結成

環境学生委員会の分科会「しばふく」は、広場の管理や活用方法の検討・実践を目的に、昨年5月に発足しました。名前には「芝」と「福」が掛けられており、「新たな友情が芽吹く」など複数の意味が込められています。

初年度の活動

12月19日にはキャンドルナイトイベントを開催し、災害時に活躍が期待されるキッチンカーの出店や野外生活のワークショップなどを通して、環境や防災について楽しく学べる機会を作りました。



思いを込めて芝植え

今後半年に1回のペースでイベントを主催する予定です。

広場に寄せる思い

代表の小川璃子さん(工学部1年)は、「工学部や農学部」の学生が多く、各々の学びや興味関心を生かせることがモチベーション」と語ります。活動を通して防災意識も高まり、今では広場を見るたびに「より良い避難所をつくるにはどうすればよいかを考えるようになりまし

た。来年度は松本を離れるメンバーも多いですが、工夫をして活動を続けたいと話します。「しばふく」の活躍により広場がどのように成長していくのか、今後が楽しみです。

旧町名碑めぐり ④



本町南の博労町は、松本城下の南出入口で、町人町枝町十町の一つ、本町の枝町でした。古くは朝廷などに献上する貢馬を集めて置いた所で馬町とか馬喰町といわれていました。馬喰衆が住み、馬市も立った場所です。町の境は袖留橋(現緑橋)で、南の端には十王堂が置かれました。元禄6(1693)年に現在の博労町と改められていました。



写真でつづる
まつもと今昔⑦①

～南松本駅一帯～



(撮影：1976.2.11)

篠ノ井線を急行アルプスが通過中。右側は芳野町の街並みが、その奥には円筒形の松本ガスのタンクが見える。左側には1987年に工場閉鎖したマツモク工業の建物が写っている。



(撮影：2025.3.15)

工場の跡地には南部公園が整備されて、大勢の人が利用している。タンクは球形になり、長年の懸案だった宮田前踏切は、ようやく地下道化の建設が始まった。完成までには10年の歳月を要する。近未来的なE353系の特急あずさがゆく。

おこひる

近所の人と話をしていた時のこと、久しぶりに「まてい」ということを聞いた。初めてその方言を耳にしたのは30年以上前

になる。手みやげを持って知人宅を訪ねた時だった▼「まていにすみません」と返ってきたことばに、頭の中は「？」でいっぱいになったのを覚えている。言わんとして「ま」とはいつた何か、なぜここで「ごま」が出てくるのか。平静を装いながら、頭の中は大混乱していた▼あとになって「ごま」ではなく「まてい」に「御」をつけてより丁寧に言っている表現だと知った。「まてい」自体に丁寧という意味があるというので、逆に恐縮してしまった▼年月とともに、分からない方言もなくなってきたと思っていた矢先、町内のお茶会で「ささらほうさら」なることを初めて聞いた。あわただしい様子を表す方言だという。自分の知らないことばがまだまだあることを知った▼松本に来て4月で35年目になる。いつか、松本のことばで何気ない会話ができれば嬉しい。



注：本図は「山ふところの里 内田めぐりかるた」を編集

信州随一とうたわれ
る厄除け観音「牛伏寺」
には、寺名の由来があ
ります。天平勝宝7(ア
56)年、唐からもた
らされた大般若経60
0巻を善光寺へ奉納す

牛伏寺、牛伏川

ところが、昭和35年、
住民投票により旧北内
田村区域が塩尻市より
分市し、松本市に合併
されました。

鎌倉時代以前には「内田牧」と呼ばれ、朝廷の牛馬を管理する左馬寮に献上馬を送り出

34年には、旧塩尻市などと合併し、塩尻市となりました。

明治7年には、北内田村や南内田村は他の村と合併して片丘村となり、さらに、昭和

珍しい歴史の変遷

内田村は江戸時代の延享3(1746)年に北内田村・南内田村に分村しました。その境は塩沢川の南で、現在の松本市と塩尻市の境に一致しています。

- ④…献上の馬 育てた証 地名に残る 牧の内
 - ⑤…二十八牧 吾妻鏡 左馬寮領牧 内田牧
- 「山ふところの里 内田めぐりかるた」より

再発見!!

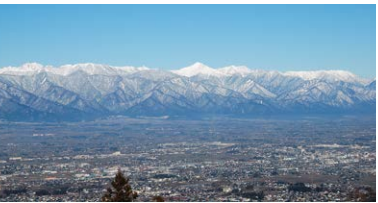
まつもと地名がたり

山ふところの里

内田地区

16

の湯」ともいわれます。
また、その景観の良さから
新たな住宅団地が造成された
「梨ノ木」「六道」といった地
名に聞き覚えのある方も多
いでしょう。新たな発展が期待
される地域です。



アルプスの絶景 (提供：内田公民館)

は、鎌倉時代に起きたがけ崩れの断層より湧いたと伝えられる鉢伏山麓の温泉地です。「欠

内田から眺めるアルプス連山の絶景は皆が知るところです。それを生かした「崖の湯」

浴びて眺めて

る途中、経典を運んでいた2頭の牛がそこで倒れたことか
ら名が付いたと言われています。
フランス式階段工で知られる牛伏川や、牛伏ダムにもその名が付きました。



フランス式階段工

松本平の野鳥たち

オオバン (2021年2月安曇野市御宝田の池 写真提供：信州野鳥の会)

全長39cm。クイナの仲間の中では一番大きく太っている。全体は灰黒色で、口ばしは白色、足は緑青色。全国の湖沼で見られるようになり、松本平でも普通種傾向。松本城の堀、特に安曇野市の御宝田は良い観察地。

まつもと散歩

ちいさな花と
大きな夢が咲く
春はきっとそんな場所

(撮影：2026.2.22 縄手通り)